

中学生の 音楽 ①

指導者用デジタル教科書（教材） 音声テキスト

本資料は「指導者用デジタル教科書（教材）」に収録されている映像資料の音声をテキストにしたものです。本教材に関連した資料を作成される際の参考として、ご活用ください。なお、音声解説の無い映像資料は、一部割愛しております。

目次

| | |
|---------------------|---|
| P. 14 My Voice! | 2 |
| 準備（姿勢と呼吸） | 2 |
| 歌声づくり | 2 |
| P. 24 浜辺の歌 | 3 |
| 林 古溪 | 3 |
| 成田為三 | 3 |
| P. 29 赤とんぼ | 4 |
| 三木露風 | 4 |
| 山田耕筰 | 4 |
| P. 45, 46 春 一第1楽章一 | 5 |
| チェンバロ | 5 |
| A. ヴィヴァルディ | 5 |
| P. 50 魔王 —Erlkönig— | 6 |
| F. P. シューベルト | 6 |
| J. W. v. ゲーテ | 6 |

| | |
|--------------------|----|
| P. 54 雅楽「平調 越天楽」 | 7 |
| ふきもの 吹物 | 7 |
| 吹物（合奏） | 7 |
| しょう 笙 | 7 |
| ここに注目 | 7 |
| ひちりき 箏 | 7 |
| ここに注目 | 7 |
| りゅうてき 篳篥 | 8 |
| ここに注目 | 8 |
| うちもの 打物 | 8 |
| 打物（合奏） | 8 |
| しょうこ 鉦鼓 | 8 |
| ここに注目 | 8 |
| かつこ 鞆鼓 | 8 |
| ここに注目 | 9 |
| たいこ 太鼓（楽太鼓） | 9 |
| ここに注目 | 9 |
| ひきもの 弾物 | 9 |
| 弾物（合奏） | 9 |
| びわ 琵琶（楽琵琶） | 9 |
| ここに注目 | 9 |
| こと 箏（楽箏） | 10 |
| ここに注目 | 10 |
| P. 55 「越天楽」の唱歌を歌おう | 11 |
| 歌うときのポイント | 11 |
| 「越天楽」の冒頭部分 | 11 |
| 一段目 | 11 |
| 二段目 | 11 |
| 箏の独特な奏法 | 11 |
| P. 60 ソーラン節 | 12 |
| コブシ | 12 |
| 「ソーラン節」 | 12 |
| 囃子詞 | 12 |

P. 14 My Voice!

準備（姿勢と呼吸）

歌声は、息の流れによって生まれます。スムーズな息の流れは、快い歌声をつくるばかりでなく、音楽の流れも生み出します。バランスのよい姿勢を保ち、スムーズな呼吸で歌うための練習をしましょう。まずは姿勢です。両足を軽く開いて立ち、下半身を安定させます。そして、背筋をまっすぐに伸ばし、上半身をリラックスさせます。次に、よい歌声にするための呼吸のポイントです。吸うときは、鼻と口からおなかのほうへ、息を吸います。このとき、おなかだけでなく、背中や腰の周りなど、体全体に空気を入れるようなイメージを、もつとよいでしょう。吐くときは、おなかの周りに力を感じながら、少しずつ、ムラなく、ゆっくりと吐きます。一定の強さでなるべく長く、息を吐き続けることが、できるようにしましょう。一緒に呼吸のエクササイズをやってみましょう。息を吸うときは、花の香りを嗅ぐような感じで、素早く息を吸います。そして、声を出さずに、スーっと息を吐きましょう。

歌声づくり

豊かな響きのある歌声を手に入れるには、響かせ方や、息の方向に気を付けることが大切です。まず、息の方向は、頭のとっぺんから上に向かって、息が出ていくような感じにします。そして、眉や頬を上げるようなイメージで、左右の眉の間の辺りを意識し、そこに響きを集めるような感じで、声を出します。このように、鼻の下に手を当てて、手の上のほうに向かって、声を出す感じにするとよいでしょう。

P. 24 浜辺の歌

林 古溪

林古溪は、1875年、東京の神田に生まれました。本名は林竹次郎といいます。古溪という雅号は、8歳のときから生活をしていて、神奈川県愛甲郡下古沢村（現在の厚木市）での生活を懐かしみ、地名の一字から取ったと、いられています。彼は、国文学者、漢文学者としても知られています。浜辺の歌の詩は、幼少期を過ごした、神奈川県藤沢市の辻堂海岸^{つじどう}を思い浮かべて、つくられたといわれており、1913年に発表されました。

成田為三

成田為三は、1893年、秋田県北秋田郡米内沢村（現在の北秋田市米内沢）に生まれました。1914年に上京し、東京音楽学校に入学します。卒業後ドイツに4年間留学し、西洋の本格的な作曲技法を学びました。帰国後、合唱曲やピアノ曲を発表したほか、作曲についての書物も、多く出版しました。また、子ども向けの雑誌「赤い鳥」の作曲を担当し、大正童謡運動の中心として、活躍しました。「浜辺の歌」は、東京音楽学校在学中につくられ、卒業後の1918年に出版されたものです。

P.29 赤とんぼ

三木露風

三木露風は、1889年、兵庫県揖西郡龍野町（現在のたつの市）に生まれました。本名は三木操とい
います。1909年に発行した詩集「廃園」が広く認められ、北原白秋と並び称されるようになり、い
わゆる白露時代が始まります。北海道のトラピスト修道院に、妻と共に身を寄せていた露風。ある日の
夕方、窓の外の赤とんぼを見て、自分の幼いときの思い出を詩に書きました。1921年に、児童雑誌
「櫻の実」で「赤とんぼ」を発表。山田耕筰により曲がつけられたのは、その6年後のことです。1928
年からは、東京府北多摩郡三鷹村（現在の東京都三鷹市）に家を構え、1964年に亡くなるまで、こ
の地で生活しました。現在では三鷹市と、彼の出生地でもあるたつの市は、「赤とんぼ」が縁となり、
姉妹都市として、友好親善を深めています。

山田耕筰

山田耕筰は、1886年、東京の本郷に生まれました。1908年に東京音楽学校を卒業後、1910年か
ら3年間、ドイツのベルリンの国立高等音楽学校へ留学し、伝統的なドイツの作曲法を学びます。
1912年には、日本人で初めての交響曲「かちどきと平和」を作曲し、帰国後、我が国最初の交響楽
団となる東京フィルハーモニーを組織する一方、オペラの普及にも努めました。1926年に、神奈川
県高座郡茅ヶ崎町（現在の茅ヶ崎市）に移り住み、翌年の1927年に『山田耕筰童謡百曲集』の1曲
として、「赤とんぼ」が発表されました。

P. 45, 46 春 —第1楽章—

チェンバロ

チェンバロという楽器を紹介します。チェンバロは、バロック時代の音楽に欠かせない、ピアノの前身ともいえる楽器です。それでは、ピアノとの違いから、この楽器の特徴を見ていきましょう。まず、音の出し方です。ピアノでは、弦をハンマーでたたいて音を出しますが、チェンバロは、プレクトラムという爪で、弦をはじいて音を出します。鍵盤を見てみましょう。2 段ありますね。上の鍵盤と下の鍵盤、それぞれ弾いてみましょう。上の鍵盤のほうが、下の鍵盤より少し小さい音がします。上と下の鍵盤、それぞれ使い分けることによって、エコーの効果を出すことができます。鍵盤の色は、ピアノと逆になっているものもあります。これには、幾つかの説があるといわれています。チェンバロは、独奏楽器としてはもちろん、ヴィヴァルディの四季のような、合奏曲で伴奏をする楽器としても重要でした。

A. ヴィヴァルディ

アントニオ・ヴィヴァルディは、1678 年、現在のイタリアのベネツィアに生まれました。小さい頃から、ヴァイオリン奏者の父親から、音楽の手ほどきを受けていました。25 歳で教会の司祭になりますが、もっぱら作曲家や指揮者といった音楽科の仕事ばかりしており、ベネツィアにあるピエタ養育院で音楽を教えました。そこでは、少女たちだけでオーケストラが編成され、彼女たちによる演奏会には、ヨーロッパ中から大勢の旅行客が訪れました。その演奏会のために、ヴィヴァルディは膨大な数の協奏曲を作曲し、それらが出版されて、広くヨーロッパに知られていました。その数は、500 曲あまりにのぼります。

P. 50 魔王 —Erlkönig—

F. P. シューベルト

フランツ・ペーター・シューベルトは、1797年、オーストリアのウィーン郊外に生まれました。11歳から宮廷礼拝堂における合唱隊の一員として、美しいソプラノを聴かせていました。16歳で卒業したあとは、学校で教員の仕事をしながら、作曲を続けました。18歳のときに、「魔王」や「野ばら」を作曲し、しだいに彼の名が世に知られるようになります。31年という短い生涯でしたが、その間に600曲以上のリートを作曲したほか、管弦楽曲や室内楽曲、ピアノ曲、宗教音楽などで、数多くの作品を残しています。また、ベートーヴェンを尊敬してやまなかった彼は、その遺言どおり、現在ウィーン中央墓地の、ベートーヴェンのお墓の隣に、並んで眠っています。

J. W. v. ゲーテ

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテは、1749年、ドイツのフランクフルトに生まれました。ドイツの代表的な文学者であり、詩や小説、戯曲などで優れた作品を数多く残しています。中でも、「ファウスト」は、ゲーテの代表作ともいえる戯曲で、一生をかけて完成させた大作です。ゲーテの詩には、シューベルトのほかにも、モーツァルトやベートーヴェンなど、多くの作曲家が曲を付けています。また、ゲーテの作品に基づくオペラや交響詩なども多く、音楽と深いつながりがあります。

P. 54 雅楽「平調 越天楽」

ふきもの 吹物

吹物（合奏）

教科書 52 ページ「ア」の部分を演奏します。それぞれの楽器の特徴を生かして、奏者が互いに音を聴きあって演奏している様子を感じ取りましょう。

しょう 笙

笙は、竹でできた楽器で、吹いても吸っても同じ音が出るのが特徴です。「匏」と呼ばれる吹き口のついた円筒形の器に、17本の細い竹を差し込んで、束ねてあります。17本のうち、15本の竹の下に、金属製の「簧」と呼ばれるリードが付けられており、指孔を押さえて息を吹き込むことによって、リードが振動して音が出ます。息に含まれる水蒸気が、冷たい簧に当たって結露しないように、演奏の前後に楽器を温めています。

ここに注目

笙は旋律ではなく、和音を演奏します。笙が奏でる和音のことを、「合竹」といいます。息を吐いたり吸ったりする切り替えは、1拍目に行いますが、その少し前から指を移動して、和音を変えていきます。

ひおりき 箏

箏は、竹でできた縦笛です。鋭い音色と大きな音量が特徴で、旋律を演奏します。管の全長は、約18cmで、指孔は表に7つ、裏に2つあります。管の表面には、細く切った糸のようにつないだ、山桜の木の皮が巻かれ、上から漆が塗られています。そして、植物の葦でできた「芦舌」と呼ばれるリードを管に差し込んで、演奏します。

ここに注目

教科書 52 ページ「ア」の部分の14小節目で演奏される、「塩梅」という奏法を紹介します。塩梅は、指遣いを変えずに、芦舌のくわえ方と、息の吹き込み方で、音の高さを変化させる奏法です。

竜笛

竜笛は、竹でできた横笛です。箏楽より高い音域で、やや装飾的な旋律を演奏します。管の全長は、約 40cm で、歌口と7つの指孔があります。歌口に近いこの辺りに、鉛を入れたり、山桜の木の皮を巻いた管の上に、漆を塗ったりして、芯のある大きな音が出るように、工夫されています。管絃の合奏はほとんどの場合、竜笛の「音頭」から演奏を始めます。

ここに注目

教科書 52 ページ「ア」の部分の 4 小節目で演奏される、「押」という奏法を紹介します。押は、同じ音を、息を一度緩めたあと、アクセントのように強めて吹く奏法です。

打物

打物（合奏）

教科書 52 ページ「ア」の部分と「イ」、「ウ」に続く「ア」の部分で、龍笛の唱歌に合わせて演奏します。打物の演奏の特徴や、2つの部分のリズムパターンの違いを、感じ取りましょう。

鉦鼓

鉦鼓は、雅楽で唯一、金属でできた楽器です。鉦鼓を打つことを「摺る」といい、直径 15cm の楽器の内部を、ばちで摺ります。木製のばちの先は球状になっており、水牛の角などが、用いられることもあります。

ここに注目

鉦鼓には、2種類の打ち方があります。これは「金」です。1つだけ打ちます。これは「金金」です。左、右と打ちます。鉦鼓には、1拍目を示す役割があり、太鼓の鳴るところでは、太鼓に一瞬遅れて摺られるので、「ドチチン」と聞こえます。

鞆鼓

鞆鼓は、全長約 30cm の、胴の両側に張られた革を、細長い2本のばちで打つ楽器です。鞆鼓を打つことを「掻く」といい、円を描くように掻きます。鞆鼓は、合奏の流れを司る、リーダー的な役割を担っており、速度を決めたり、終わりの合図を出したりします。

ここに注目

鞆鼓には、3種類の打ち方があります。これは「^{もろらい}諸来」です。両手で交互に打ちます。これは「^{かたらい}片来」です。片手だけで打ちます。これは「^{せい}正」です。右手で1つだけ打ちます。

^{たいこ}太鼓（楽太鼓）

太鼓は、直径が約55cm、厚さが15～20cmぐらいの楽器です。木枠につるした太鼓を、頭の部分に鹿皮を巻いた、木製の^{ばち}で打ちます。雅楽の太鼓は、循環する時間を一定の間隔で、区切るように打たれます。

ここに注目

太鼓には、2種類の打ち方があります。これは「^{すん}鬨」です。左手の^{ばち}で、やや弱めに打ちます。これは「^{どう}百」です。右手の^{ばち}で打ちます。百を打ったあとは、両方の^{ばち}先を、打った革の面につけて、余韻を止めます。

^{ひきもの}弾物

弾物（合奏）

教科書52ページ「ア」の部分の後半を、箏の唱歌に合わせて、演奏します。それぞれの楽器の演奏の特徴を、感じ取りましょう。

^{びわ}琵琶（楽琵琶）

琵琶は、果物の琵琶のような形をした^{どう}胴に、^{しおくび}鹿頸といわれる^{さお}棹を取り付け、4本の糸を張った楽器です。このような形をした木製の^{ばち}を使って、音を出します。日本の琵琶の中では最も大きく、合奏で用いられるのが特徴です。

ここに注目

琵琶には、このように、1拍目をはっきりとさせる役割があります。

箏（楽箏）

箏は、かまぼこ状の木製の胴に、13本の糸が張られた楽器です。胴の上に、このような形をした柱を立てて糸を支え、音の高さを調整します。爪は、細長い竹板に、輪になった革をつけたもので、竹の節の部分で糸をはじいて、音を出します。

ここに注目

箏には、このように同じリズムを繰り返し演奏することによって、1拍目、2拍目、3拍目を示す役割があります。また、演奏の中で、一定の間があるときには、「鶏足」と呼ばれる形をして待ちます。鶏足は、箏を美しく弾く作法の一つです。

P. 55 「越天楽」の唱歌を歌おう

歌うときのポイント

雅楽を演奏するときには、「楽座」という座り方をします。皆さんも、楽座で唱歌を歌ってみましょう。背筋を伸ばし、肩の力を抜いて座ります。椅子に座る場合には、少し浅く腰掛けて、姿勢を正します。唱歌を歌うときには、必ず拍子を取りながら歌います。右手で、右足の膝の上を2回、横を2回打ち、これを繰り返します。

「越天楽」の冒頭部分

一段目

息つぎの場所に気を付けて、箏の音色をイメージしながら、もう一度歌いましょう。

二段目

この「ハ」を唱歌では「ファ」と発音します。昔は「ハ」と書いて「ファ」と発音していたためです。

箏の独特な奏法

箏は、雅楽で主旋律を受け持つ管楽器です。竹でできた管に、葦でできた「芦舌」と呼ばれるリードを、このように差し込んで、演奏します。箏には「塩梅」と呼ばれる、独特な奏法があります。塩梅は、指遣いを変えずに、芦舌のくわえ方や、息の吹き込み方で、音の高さを変化させる奏法です。このように、塩梅を用いることによって、旋律に装飾的な動きをつけます。唱歌の後半に出てきた（唱歌〜♪）の部分は、この塩梅を用いて、演奏します。

P. 60 ソーラン節

コブシ

民謡で欠かすことのできない技法のひとつに、「コブシ」があります。歌い手が即興的につける細かい音の動きのことで、歌い手の腕の見せ所でもあります。皆さんも、コブシに挑戦してみましょう。「ニシン来たかとカモメに聞けば」の部分を、少しゆっくり歌ってみますので、コブシに注目して聞いてください。「ニシン来たかと」の「た」と、「カモメに」の「モ」は、(歌唱～♪)というように、しゃくりを入れます。また、「聞けば」の「ば」は、(歌唱～♪)というように、回して落とします。民謡はただ単に、旋律をそのまま伝承してきたわけでは、ありません。さまざまな歌い手たちが、歌い方を工夫し、そのため、節回しも変化しながら、受け継がれてきました。皆さんも、絵譜に示されたコブシの中から、好きなところを選んで、自分で工夫して歌ってみてください。

「ソーラン節」

- ① 「ソーラン ソーラン」は、「ソラソラ」という催促の言葉が変化したもので、それに対して、囃子詞の「ハイハイ」が、答えになっています。「ヤーレン」の「ヤ」、「ソーラン」の「ソ」は(歌唱～♪)というように、鋭く気合を入れて、歌いましょう。(女声：歌ってください。)
 - ② 「来たか」の「た」、「カモメ」の「モ」、「聞けば」の「ば」の部分のコブシは、アクセントを付けて、歌います。
 - ③ 「チョイ」のところに、アクセントを付けて、歌いましょう。
 - ④ 「チョイ ヤサエー」が、網を引き揚げるきっかけの掛け声で、「エンヤーサーノ ドッコイショ」が、引き上げているときの掛け声です。(歌唱～♪)と歯切れよく入り、力強く大きな声で歌いましょう。
-

囃子詞

曲の中で掛ける、短い掛け声のことを「囃子詞」といいます。囃子詞には、歌い手を盛り立てたり、音楽的な効果を高める、重要な役割があります。囃子詞の掛け方は、曲の感じや、その成り立ちによって、変わります。ソーラン節は仕事歌ですので、力強く大きな声で、歯切れよく掛けます。「ハイハイ」のところは、「ヤーレンソーラン」という歌の部分に答える感じで、「ハア ドッコイショ ドッコイショ」のところは、歌を盛り立てる感じで、掛けましょう。
